

2018年度草木染塾 5月講座

- ・開催日 5月21日(月)
- ・場所 川崎市黒川青少年野外センター
- ・一文紹介 緑染めと板締め絞りによる模様出しを行いました。

今年度は草木染塾の卒業生を対象に、草木染について学びを深めるとともに、指導者としてのスキルアップを目指す講座として開講されました。

午前は、藤田富二さんのアドバイスを受けながら若葉を使った緑色の染め出しを、午後は板締め絞りによる模様出しを行いました。

1.緑染め

緑染めは春(6月頃まで)の若葉がよいとのことで、今回はクズ、クサギ、クワ、フキの葉を使った。炭酸カリウムを溶かしたアルカリ液で煮出して染液を取る。いずれも1,2番液はアクが出るため3,4番液から使う。中でもクサギがもっともきれいな緑色になった。フキは4番液まで煮出しても緑色が出なかった。また、染液を酢酸で中和した場合としなかった場合の違い、媒染剤(みょうばん、銅、灰汁)による色の違いもフキを除くそれぞれの植物で試してみた。

[結果]

- ・クズは中和した方が色がよく、クサギは中和しなくても色がよい。ただし大きな差はないので大量に作るイベントでは中和を省いてもよいといえる。
- ・クワは緑というより黄色に染まるので緑染めには適さない。
- ・媒染後、再度染めることで色が深まる。
- ・銅媒染がもっとも緑色が出る。
- ・木綿は銅以外の媒染では濃染剤処理をしないと緑に染まらない。

2.板締め絞りの模様出し

サンプルの柄を参考に、一つの模様出しを確実にマスターすることを目指した。手ぬぐいの長辺を4等分の屏風たたみにしたものを、さらに横に長方形(正方形)にたたみ、対角線に板締めをする。染液は玉ねぎの皮を使い、みょうばん媒染したのち、板を反対の対角線に締め直して、再度染液につけ、鉄媒染する。板の幅や角度、締める回数などを変えることで応用の幅ができる。

緑染めは難しいイメージがありましたが、講座での学びを活かして他の植物でも試してみたいと思います。また、クサギは一般には邪険に扱われている樹木だと思いましたが、なかなか「使える」植物であることが発見できました。

- ・参加者 前田、瀧浪、松田、桜井、小川
- ・講師 奥村、中野、藤田、矢吹(アシスタント)
- ・報告者 矢吹佳枝(26年)



「クサギの染液」



「クサギの葉で染めたシルクストール (みょうばん媒染)」



「板締めの変異」 1



「板締めの変異」 2